

令和4年度第1回高梁市総合教育会議 会議録

1. 招 集 令和4年10月21日 午後3時00分
2. 開 会 令和4年10月21日 午後3時00分
3. 閉 会 令和4年10月21日 午後5時00分
4. 会議の場所 高梁市役所4階会議室1・2
5. 出席、欠席した構成員の氏名

氏 名	出欠の別
近 藤 隆 則	出 席
小 田 幸 伸	出 席
藤 井 祥 生	出 席
吉 川 昭	出 席
川 上 は る 江	出 席
渡 邊 あ り さ	出 席

6. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
政 策 監	前 野 洋 行	
教 育 次 長	上 森 智 子	
参 与	福 原 洋 子	
参 与	田 村 啓 介	
教 育 総 務 課 長	藤 井 聡 美	
こ ど も 教 育 課 長	荒 田 真 一	
社 会 教 育 課 長	伊 丹 誠	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	松 本 武 士	
社 会 教 育 課 参 事	安 田 隆 人	
教 育 総 務 課 総 務 係 長	福 本 真 紀 子	

7. 協議題

- (1) 中学校部活動の地域移行について
- (2) 学力向上を狙った授業の質保障に向けた取り組みについて
- (3) 地域学校協働活動・公民館活動の活性化へ向けて

8. 議事の概要

1 開会

2 あいさつ（市長）

今年度も後半に入ったがコロナウィルス感染症の影響で動きがまだ十分できていないのも事実で、国においては旅行支援等の実施も進められており人が動いてくるかと思うが、一方でまた感染拡大がぶり返すのではという報告もされており付き合い方が難しい。特に小学生や就学前の子どもたちはワクチン接種にしてもどうあるべきか答えがない中で、現場の教職員の苦労や心労が重なっていると伺っている。なんとか全員で現場をサポートしながら、教職員の負担を和らげることも必要と思っている。

来年度に向けての話をしていく中で、子どもたちがこの地域をもっと知り、この高梁で生まれ育ったことに愛着と自信を持ち、他の方々にも誇りを持って高梁を紹介できるような環境づくりが必要と思っている。教育委員の皆さまにもお知恵を賜りたい。これまでの取り組みを PDCA サイクルで見直しながら新しい取り組みも必要と思う。本日は忌憚のない意見もいただきながら、地域でのお立場も踏まえいろいろご示唆賜れば幸いです。

3 協議題

こども教育課長	別紙資料により「(1) 中学校部活動の地域移行について」を説明。
吉川教育委員	<p>大変難しい問題で人材発掘が課題。吉備国際大学等のご協力もいただいているということで、そういう地域連携がうまくできれば、そもそも生徒数が減少している状況で中学校の再編統合問題もいずれは突きつけられると思う。かと言って生徒数だけの問題で進められる課題でもない。</p> <p>部活動の地域移行で文化部はプラス面になる可能性がある。現在高梁市にはない吹奏楽部ができたり、運動系の部活に着目されがちだが文化部を希望する生徒にとって活性化の起爆剤になればという期待を持っている。</p>
藤井教育委員	<p>人口減少で現在の部活動の継続が困難という前提からの話だが、減少を見据えたうえで少人数で成り立つ競技に特化するなど、現実的にできることからやるべきなのは。例えばインターネットを使ったプログラミングの部活動であれば学校を超えても繋がれるし高梁市に住んでいなくても指導者になれる。部活動で全国レベルのものがあれば、それを目的として高梁市に移住する人も出てくると思う。この地域移行をチャンスととらえて戦略的にやるべきでは。地の利を活かしてクライミングやテニス、サッカーなど。何かに特化してそこへ予算をつけてもよいのでは。こういう視点で、現在を踏襲するのではなく、もう一度抜本的に見直し将来を見据えた改革をすべきと思う。</p>

川上教育委員	<p>高梁市では現在合同部活動に取り組んでいる。いきなり地域移行は難しいので合同部活動はよい試みと他市の教育委員も関心を持ってくださった。今後はいろいろな指導者が入ってくる中で、共通理念を持たないと指導がやりにくいのではと思っている。具体的に誰が中心になってどのように理念を共有するのか。また、教育委員会事務局の事務分担はどうするのか。</p>
こども教育課長	<p>事務局の役割分担について。地域のスポーツ団体等との連絡調整はスポーツ振興課が中心に行う。教員の意識改革や学校とのやりとりはこども教育課が中心に行う。最終的に完全に地域移行し学校と切り離された形になったら主体はスポーツ振興課になると考えている。事務局側でこの先ずっと運営していくのは難しいので、運営主体の設置を検討するのも今後の課題。</p>
スポーツ振興課長	<p>市内に7つの運動部があるが、スポーツ振興課職員が分担して12月までには1回ずつそれぞれの部会を開く予定。</p>
渡邊教育委員	<p>そもそも子どもの人数が少ないという問題があるので、そこを増やすことにも取り組んでいかないといけない。</p>
教育長	<p>まずは部活動を指導する教員の勤務形態改善という面があるので、今まで中学生年齢のスポーツや文化活動を中学校の部活動に丸投げしていたものを、どういうバランスでどういうところが中心で進めていくのか考えていこうというのが現在の主流。地域と学校が上手に役割分担したり協力したりしていかないといけない。中体連の規則が変わり、地域で活動しているチームからも中体連の大会へ出場できるようになる。</p>
渡邊教育委員	<p>季節によって部を変えることができたり、兼ねることができてもよいと思う。</p>
市長	<p>指導者は足りるのか。</p>
教育長	<p>恐らく足りる。スポーツ少年団に中学生まで見てもらったり、吉備国際大学も一緒にやろうとしてくださっている。あとは各スポーツの協会。無理のない形でやっていきたい。</p>
市長	<p>現実的な問題として、合同部活動の移動手段も考えていかななくてはいけない。全部保護者負担が果たしてよいのか。考えていかないといけない。</p>
こども教育課長	<p>別紙資料により「(2) 学力向上を狙った授業の質保障に向けた取り組みについて」を説明。</p>
川上教育委員	<p>単元の見通しに力点を置いた授業構成は当然必要だが、それを徹底させるのが難しい。若い世代の先生にどのように研修させるかの具体策が大事だと思う。学校単位ではなく、市全体での研修の場が必要なのでは。</p> <p>もう一点、昨日教育実習巡回で訪問した鳥取市の校長先生とのお話の中で、一人一台端末を使うところと使わないところ、使わないところで思考力が深まるのではという研究をしているということだった。そこをきっちり見極める研究をしているとおっしゃっていて、その視点も重要だと感じた。</p>
教育長	<p>具体的な戦略がなければというのはそのとおりだと思っている。市全体で研修も行っているが、学校訪問等での指導もこの方向にシフトしていく。高梁市をひとつの学校として捉えて、共通認識をもてるような会を作っていきたい。</p>

吉川教育委員	若さ情熱に溢れた世代の先生が学校にいるのは力になる。小学校と中学校を比べた時に、小学校の担任はすべての教科を教えるので空き時間が少ない。中学校は教科担任制でそれぞれ専門の先生から学ぶ。小学校の高学年に一部でよいので教科担任制が導入できないか。すべての学校でなくても規模の大きい学校で。複数の先生でその学年に関われば、チームとして動ける。それができない小学校の特に高学年の担任の負担は大きい。
こども教育課長	5,6年生の合同授業、例えば体育は5年生の担任が、音楽は6年生の担任が受け持つといった取組をしている学校もあるので、各学校に紹介していきたい。専科加配についても交渉していきたい。
吉川教育委員	小学校の担任教員は専門性を持つことが課題だと思う。大学を出て現場に入ってから最初の10年間でいかに自分の専門分野を持つか。それを後押しできるような学校や教育委員会であるように手を打っていく必要があると思う。
社会教育課長 社会教育課参事	別紙資料により「(3) 地域学校協働活動・公民館活動の活性化へ向けて」を説明。
市長	この活動に力を入れていきたい。地域が高齢化して活力がなくなっているのは正直なところだが、できることはまだまだあると思う。地域の高齢者にとっても認知症予防等に繋がるところもあるのでは。
吉川教育委員	通学合宿は必要なのでは。学校単独では難しいので、公民館に間に入ってもらって複数の学校と連携し進めばいいと感じた。
市長	先日テレビで子どもと高齢者が麻雀をしているのを見た。子どもが大人に負けるのが悔しくてやるうちに、結果記憶力が増していくそう。こういう活動はいろいろな形でできる。
川上教育委員	延岡市を訪問した時に今の説明と似たような取組をされていた。例えば学校の調理室を地域と共有で使う。それによって子どもと地域の方たちが一緒に活動できる。このような取組はデンマークなど福祉の国ではやっている。高梁市でもどんどん進めてほしい。
渡邊教育委員	子どもは自己肯定感が高まると自分に自信がついて学力向上に繋がると思う。学ぼうという意欲が高まる。アクションを起こして何か得られるものがあると成長する。学校という決められたスペースだけでの価値観で生きていくのではなく、地域のいろいろな人たちと関わっていろいろな価値観を得て、それによって自信をつけていける。こういう活動が充実し、小中学校生活の土台となってほしい。

4 その他

吉川教育委員	<p>コロナ禍でいろいろな学校行事等が制限された点もあるが、マイナス面ばかりではなかったと思う。今まで当たり前だったことが当たり前でなくなって、行事の簡素化など、それがプラス面であれば今までの当たり前を見直すことが必要。</p> <p>もう一点、吹屋地区に大変多くの方が来てくださっている。ボンネットバスも好評だったが、7月～9月の日曜日運行だったので、せめて11月まで、そして土曜日や祝日も運行できるよう改善できればと思う。</p>
--------	---

藤井教育委員	<p>校則について、もし今の時代に見合っていないならば生徒主導で見直すべきでは。携帯電話も今の時代防犯上から考えても学校に持ってくることを一律に禁止するのは違和感がある。どういうふうにするか、これはいい悪いというのを子どもに判断させないといけない。社会に出たらいいことと悪いことを判断することが必要になってくるので、まず校則から見直しては。</p>
渡邊教育委員	<p>5,6年生で地元の企業見学をさせてほしい。地元の企業を知ることによって就職の選択肢の一つに入ってくると思う。地元を誇れる気持ちもそこから生まれてくるのでは。</p>
教育長	<p>校則や学校行事は教育委員会でコントロールするものではなくて、一定の規則の中で学校の主体性に任せている。教育委員会としてはあまり規制せず、どんどんやれと支援する姿勢をとっている。ICT機器の持ち込みなど実状に合っていない部分の課題意識はある。</p>
教育次長	<p>コロナウィルス感染拡大防止のために遠足に行けなくなった時に、例えば見学に行けなくても水島の工場とオンラインで繋いで、実際より詳しく見えたりすることもあった。その他にも、福地小学校と城南高校がオンラインで交流したり、コロナがあったから良くなった部分もあると思う。</p>

5 閉会

あいさつ（市長）

本日はありがとうございました。時代は流れているので、それに対応していくことのできる子どもを育てていかないといけないと実感するところ。今後いろいろとご意見を賜りたい。今後ともよろしくお願いたします。